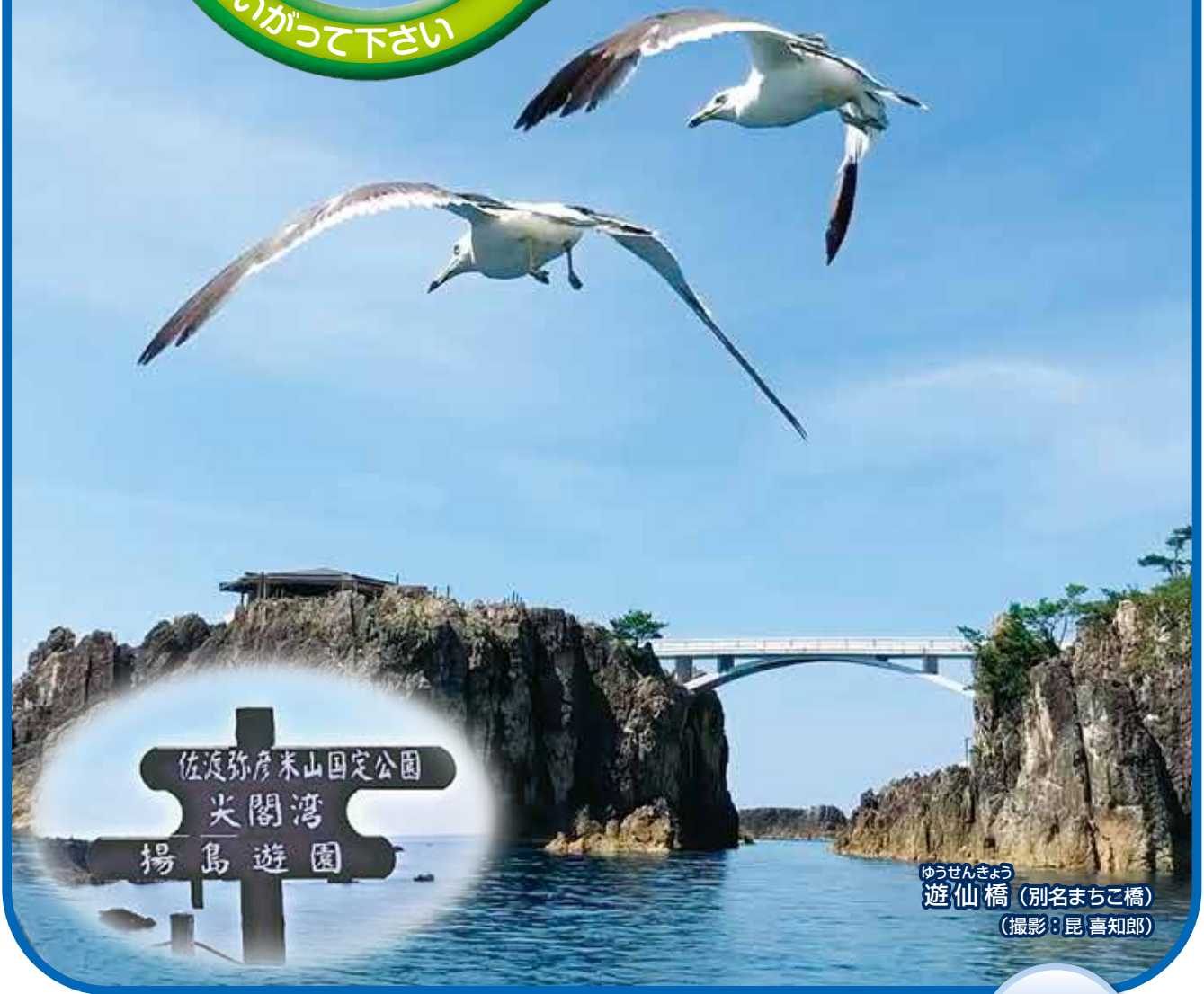


ECOひいき

ECOLOGICAL INFORMATION

かわいがって下さい



一般社団法人 新潟県環境衛生中央研究所 情報誌

第 **50** 号
2023.8発行

もくじ CONTENTS

p2 令和5年度 通常総会報告

p3 ECOひいき50号の歴史／専務理事就任・勇退のご挨拶

p4—p5 特集 最近の食中毒の発生動向・傾向
～アニサキス食中毒が急増～

p6—p7 親子で楽しく学ぼう
夏休み「食と環境」体験学習会を開催しました

p8 情報掲示板 こんなことしています



令和5年度

一般社団法人 新潟県環境衛生中央研究所

通常総会報告



去る5月26日、令和5年度の通常総会をホテルニューオータニ長岡にて開催しました。COVID-19感染症の影響により、すべて対面による開催は令和元年に実施して以来、4年ぶりとなりました。

本総会では、総会員数60名のうち22名のご本人出席と36名の委任状提出をいただき、規約に従って成立となりました。郷理事長の挨拶ののち、来賓の新潟県食品衛生協会会長小熊様からご祝辞をいただきました。

議事では、規約により理事長を議長に選任し、第1号から第4号の議案として、令和4年度事業及び決算報告、令和5年度事業計画及び予算、第5号議案の役員改選、第6号のその他事項が、順次、質疑応答され、各々、事務局案にてご承認をいただきました。さらに報告・連絡事項として、試験検査の品質保証への取り組み等が報告され、議長解任ののち、閉会しました。

その後の懇親会では、浅野理事の挨拶ののち、新潟県福祉保健部生活衛生課長湯本様、長岡市環境部長相田様、長岡労働基準監督署副署長加茂様、長岡商工会議所専務理事田中様から来賓ご祝辞をいただきました。大桃理事の乾杯ののち、会員の皆様との異業種交流や情報交換の場として、そして往時を振り変える時として、和やかなひとときを過ごしていただきました。

ご多忙にも関わらず多くの方々にご出席いただき、お蔭様をもちまして総会を無事終えることができました。この場を借りて感謝申し上げます。ありがとうございました。

専務理事 野口 修也



情報誌「ECOひいき」50号の歴史

創刊号（2000年7月発行）～ 第49号（2023年1月発行）

当所の使命である生物と環境との調和、即ちエコロジーを大切にひいきにする。そして皆様方から当所をえこひいきして頂きたいと云う密やかな願望を込めて2000年に命名、創刊した情報誌です。



専務理事就任のご挨拶

専務理事 野口 修也



この度の総会におきまして、長年に渡り事業進展にご尽力された金子専務理事の後任として、新たに令和5年5月27日付で専務理事に選任され就任いたしました。昭和57年より職員として、令和2年からは理事として新潟県環境衛生中央研究所と共に歩んで参りました。

これからも、検査機関としての資質向上を図り、試験検査業務を通じて地域社会の発展に貢献できるよう努めてまいりますので、今後ともより一層のご指導ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

金子賢司前専務理事が勇退されました

この度45年の長きにわたり在席された金子賢司さんが勇退されました。創業51年の新潟県環境衛生中央研究所とともに過ごし、検査員としては着実な業務遂行、所長・専務となってからは優れた指導力と人望で当研究所の発展に大きな功績を残されました。

長い間、当研究所の発展にご尽力いただき、いつも絶えず、温かいご指導を賜りましたこと、心より感謝申し上げます。



ECOひいき第1号(2000年7月)で所内紹介を行うナビゲーター金子前専務理事

最近の食中毒の発生動向・傾向

～アニサキス食中毒が急増～

食品衛生管理の向上やCOVID-19の感染防止対策も功を奏し、細菌性やウイルス性の食中毒は減少傾向にあります。

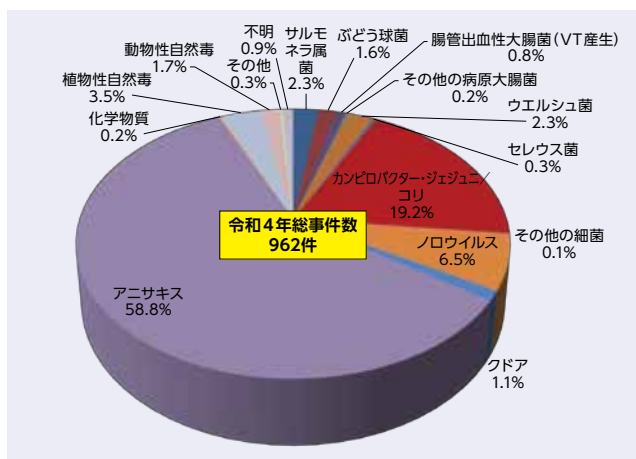
その一方でサバ、イワシ、イカなどの海産魚介類の生食による寄生虫（アニサキス）食中毒が急激に増加しています。

昨年の発生件数でみると60%がアニサキスという異常な状況となっていますが、実際の患者数は統計数よりもかなり多いものと考えられています。

食中毒発生状況（全国）

	事件数	患者数
R2年	887	14,613
R3年	717	11,080
R4年	962	6,856

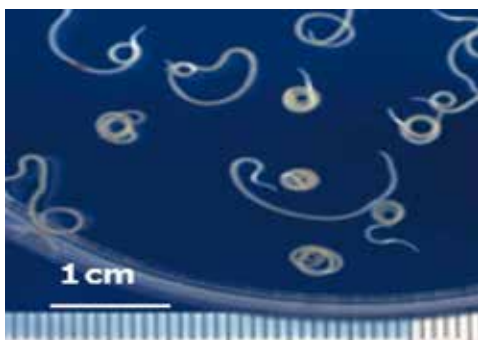
病因物質別事件数発生状況



アニサキス食中毒

アニサキスとは

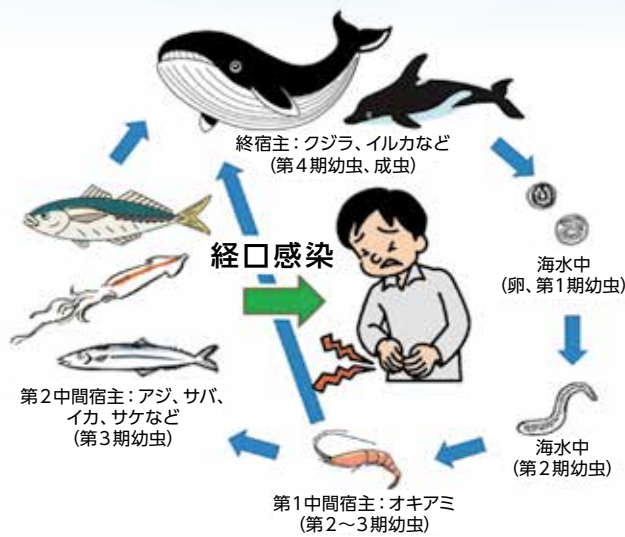
サバ、アジ、イカ、イワシ、サンマ、カツオ、サケなど、多くの魚介類の内臓や筋肉に生棲する寄生虫（体長2～3cmの幼虫）です。



サバに寄生したアニサキス幼虫

なぜアニサキス食中毒が増加しているのか？

高速道路の整備や輸送技術の進歩で鮮度の高い魚介類が入手可能となり生食する魚種が増えたこと、気候変動、温暖化などの影響でアニサキスの宿主となる魚介類が日本近海で増えているなど様々な説がありますが、明確なことは分かっていません。



アニサキスの寄生サイクル

終宿主（成虫が寄生する宿主：クジラ、イルカなど）から排出されたアニサキスの卵を食べた中間宿主（第1中間宿主：主にオキアミ）で孵化して幼虫に発育。

オキアミを食べた待機宿主（第2中間宿主：サバ、アジ、イカ、イワシなど）に幼虫が蓄積。

アニサキス食中毒

アニサキスの幼虫が寄生する魚介類を生で食べた数時間後～十数時間後に激しい腹痛（みぞおち部）、嘔気、嘔吐などの症状が現れます。

このタイミングで受診して胃カメラでみると粘膜に刺入した幼虫を確認出来ます。激痛を伴いますが胃カメラの鉗子で摘出します。

刺入部位により胃アニサキス症、腸アニサキス症、症状により劇症型（急性）、緩和型（慢性）に分類されています。



アニサキス食中毒予防法

①内臓は生で食べない

先に挙げた魚介類にはアニサキスがいるものと考え、内臓は生で食べない。時間経過とともに筋肉にも侵入していきます。

ご自身で釣った魚が原因のことも多いので注意して下さい。

②加熱する

70℃以上（60℃で1分間以上）、中心部分まで加熱。

③冷凍する

マイナス20℃で24時間以上冷凍

その他、包丁で細かく刻む、養殖魚を選ぶなども効果が期待できることもあります。

（写真・イラスト出典：厚労省・内閣府食品安全委員会HP）

親子で楽しく学ぼう

夏休み「食と環境」体験学習会を開催しました

令和元年度に実施して以降、ウイルス感染禍により久しく中止しておりました夏休み親子体験学習会ですが、今年度は4年ぶりに7月28日(金)に開催しました。

この体験学習会は今回で16回目となり、日々の生活に身近な食や環境に対して、より深く興味や関心を持っていただけるよう、食の安心・安全や環境に配慮した生活について、自ら考え、行動できる力を身につける機会をご提供すべく、長岡市教育委員会の後援を頂いて、継続して行っている事業です。

今回は長岡市内の小学校に通う児童とその保護者の19組、総勢43名の方々からご参加いただきました。理科離れが叫ばれるご時世ですが、参加されたお子さんたちは講師の説明に真剣に耳を傾け、興味深そうに目を輝かせて実験に取り組んでいました。また、一緒に参加された保護者の皆さんも、時に感嘆の声を挙げながら、優しくこども達を見守りつつ、楽しくご参加頂けたようでした。

環境のお話



講習 見えない金属を見る

鍋や硬貨、缶など身の回りまわりにあるたくさんの金属。実は眼に直接見えないところにもたくさんあって、人の身体や海などの自然界にも多くの成分として潜んでいます。そんな金属ですが、どのようにして調べられているのでしょうか…?

実験 炎色反応でミニ花火

花火の多彩な色は、含まれる金属が持つ「炎色反応」によって生じています。実験ではその炎色反応によって各金属が出す光について実際に観察し、光の色から金属の種類を当てるなどの実験を行いました。





食のお話



講習 食品添加物について学ぼう

食品添加物ってなんだろう？どんな働きがあるのだろう？本当に食べても大丈夫？食品添加物の種類や役割、安全性について学びました。

実験 人エクラを作ってみよう

人エクラは「マイクロカプセル」という技術でできています。今回は食品添加物のアルギン酸ナトリウムと乳酸カルシウムを使ってつくってみました。本物そっくりになれるかな？お好みで色を変えてみると…？！





こんにちはと しています



当研究所職員の顔を覚えてもらえるよう、毎回違うスタッフが自分の業務を紹介していくコーナーです。



試験検査部 食品検査課
木原 智史 (入社1年目)

私は飲食店等の拭き取り検査や、食品等の細菌検査を行っています。

拭き取り検査では、実際に飲食店等に伺い、従事者の手指や調理器具を検査キットで拭き取り、細菌検査を行います。また、作業環境が衛生的で安全に保たれているかチェックし、指導・改善の提案も行っています。

飲食に関わっている方々や、消費者の皆さんの食の安全と安心に貢献できるような業務を行えるよう、努めてまいります。



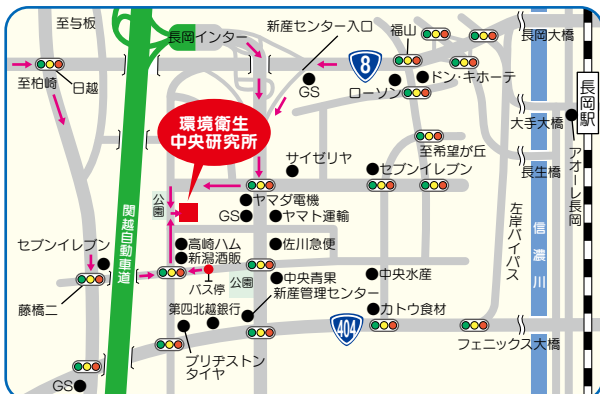
環境部 環境企画課
楡金 詢平 (入社1年目)

私は海水やプール、工場排水やお風呂、飲料水などの水を日々いろいろなところに向いて採水する業務をしています。またその分析結果をお客さんへ報告し、悪かった場合はその原因や改善策などの提案をしています。

日々多くのお客さんとお会いするため、会社の顔としてお客さんとのコミュニケーションを大切にするように日々心がけています。



明日の環境を考える



業務内容

- 食品衛生法に基づく食品検査
- 工場・事業所排水の水質検査
- 水道水・飲料水等の水質検査
- 廃棄物の分析
- ばい煙の測定
- その他各種情報の提供・調査研究等
- 衛生診断、相談、研修会等
- 公共用水域・地下水等の水質検査
- 浄化槽法定検査
- 作業環境測定
- 騒音・振動測定
- 物質同定・異物検査等の特殊分析
- 放射性物質の測定
- 土壌汚染対策法に基づく調査分析
- 温泉法に基づく温泉成分分析
- 簡易専用水道の管理の検査



一般社団法人 **新潟県環境衛生中央研究所**

本 所 〒940-2127 長岡市新産2丁目12番地7
 TEL 0258(46)7151 FAX 0258(46)9851
 新潟事務所 〒950-0965 新潟市中央区新光町7番地2
 TEL/FAX 025(283)7773 フリーアクセス 0120-940-030
 Eメール: chuken@nehcl.or.jp URL: http://www.nehcl.or.jp/



編集ノート

新潟県の今年の夏は、降水量が少なく、加えてフェーン現象による熱風が吹き荒れました。9月初めにも厳しい残暑が続く見通し。今しばらく我慢が必要なようです。皆様、くれぐれも体調に気をつけて、ご自愛の程を!!

発行責任者 郷 周一 編集委員 富井京子、昆 喜知郎

